

Subject : **Japanese**Production of Courseware
e- Content for Post Graduate CoursesPaper No. **02** : **日本語学 (Japanese Linguistics)**Module **11** : **述語と格 (Predicate and Case)**

ज्ञान-विज्ञान विमुक्तये


**Development Team****Principal Investigator:** **Prof. Anita Khanna**
Jawaharlal Nehru University, New Delhi**Paper Coordinator:** **Prof. Prashant Pardeshi**
The National Institute for Japanese Language and Linguistics (NINJAL)**Content Writer:** **Prof. Prashant Pardeshi**
The National Institute for Japanese Language and Linguistics (NINJAL)**Content Reviewer:** **Prof. Shingo Imai**
University of Tsukuba

Japanese

Japanese Linguistics

述語と格 (Predicate and Case)

Description of Module	
Subject Name	Japanese
Paper Name	日本語学 (Japanese Linguistics)
Module Title	述語と格 (Predicate and Case)
Module ID	JPN-P02-M11
Quadrant 3	Learn More

 **Pathshala**
पाठशाला
A Gateway to All Post Graduate Courses

Japanese

Japanese Linguistics

述語と格 (Predicate and Case)

Quadrant 3: Learn more

さんこうぶんけん

参考文献

- 庵功雄・高梨信乃・中西久実子・山田敏弘（著）(2000)「格助詞」, 「自動詞と他動詞」
『初級を教える人のための日本語文法ハンドブック』 pp.16-27, pp.96-10, スリー
エーネットワーク.
- 庵功雄・高梨信乃・中西久実子・山田敏弘（著）(2001)「格助詞(1)–(4)」, 「自動詞
と他動詞」『中上級を教える人のための日本語文法ハンドブック』 pp.14-55, pp.144-
159, スリーエーネットワーク.
- 影山太郎(1996)『動詞意味論一言語と認知の接点』くろしお出版.
- 高見健一・久野暉(2002)『日英語の自動詞構文』研究社.
- 松本曜(1998)「日本語の語彙的複合動詞における動詞の組み合わせ」『言語研究』114,
pp.37-82, 日本言語学会.
- 三原健一(1998)『生成文法と比較統語論』くろしお出版.
- 由本陽子(1996)「語形成と語彙概念構造-日本語の「動詞+動詞」の複合語形成について」
『言語と文化の諸相:奥田博之教授退官記念論集』 pp.105-118, 英宝社.
- Fillmore, Charles J. (1968) The Case for Case. In Bach and Harms (eds.) *Universals in Linguistic
Theory*. pp.1-88. New York: Holt, Rinehart, and Winston.
- Manjali, Franson D. (1997) (online article). *The Karaka Theory of The Indian Grammarians*.
(<http://projects.chass.utoronto.ca/semiotics/cyber/man3.html>)
- Shibatani, Masayoshi. (1977) Grammatical relations and surface case. *Language* 53. pp.789–809.

Interesting facts

- 菅井三実は、^{すがい かずみ} 比喩理論^{ひ ゆりろん}を援用^{えんよう}して意味^{い み}の観点^{かんてん}から格関係^{かくかんけい}（意味役割^{い み やくわり}）を表^{あらわ}す格助詞^{かくじょし}（主格^{しゅかく}，「対格」^{たいかく}，「デ格」^{かく}，「ヲ格」^{かく}，「ニ格」^{かく}）の分析^{ぶんせき}を進めて^{すす}いる。以下^{い か}はその功績^{こうせき}の一部^{いちぶ}である。

菅井三実 (1995) 「助詞『が』の総記性に関する一考察」『名古屋大学文学部研究論集』121, pp.181-197.

菅井三実 (1997) 「格助詞『で』の意味特性に関する一考察」『名古屋大学文学部研究論集』127, pp.23-40.

菅井三実 (1998) 「対格のスキーマ的分析とネットワーク化」『名古屋大学文学部研究論集』130, pp.15-29.

菅井三実 (2002) 「構文スキーマによる格助詞『が』の分析と基本文型の放射状範疇化」『世界の日本語教育』12, pp. 177-193.

- パーニニによるサンスクリット文法アシュターディヤーイーでは、^{ぶんぼう} 7つの格形式^{かくけいしき きじゅつ}を記述^{きじゅつ}し、それぞれを第一格^{だいいっかく}～第七格^{だいななかく}のように番号^{ばんごう}で呼ぶ^よ。さらに、カーラカ^{りろん} (*Kaarak*) 理論^{りろん}では、これらの 7 つの格形式のうち第 6 格^{かくけいしき}を除く^だ他の格形式^{かく}は規則的に以下の表^{のぞ}にあり^た、これらの 7 つの格形式のうち第 6 格を除く他の格形式は規則的に以下の表^{かくけいしき}にあり^{きそくてき}、これらの 7 つの格形式のうち第 6 格を除く他の格形式は規則的に以下の表^{い か}にあり^{ひょう}、これらの 7 つの格形式のうち第 6 格を除く他の格形式は規則的に以下の表^{い み やくわり}にあり^{あらわ}、これらの 7 つの格形式のうち第 6 格を除く他の格形式は規則的に以下の表^{い か}にあり^{あらわ}る意味役割^{い み やくわり}を表^{あらわ}すとされている。

かくけいしき 格形式	カーラカ (Karak)	い み やくわり ていぎ 意味役割の定義	い み やくわり 意味役割の てんけいてき かいしゃく 典型的な解釈	にほんごめい 日本語名
だいいっかく 第一格	Kartṛ	どくりつ ふ ま 独立して振る舞うもの	こういしゃ どうさしゅ 行為者, 動作主	しゅかく 主格
だいにかく 第二格	Karman	こういしゃ ほつ 行為者が欲しているもの	ひどうしゃ たいしやう 被動者, 対象	たいかく 対格
だいさんかく 第三格	Karaṇa	もつと こうかてき しゅだん 最も効果的な手段	どうぐ 道具	ぐかく 具格
だいよんかく 第四格	Sampradāna	karman と共に目指すもの	ちやくてん 着点	よかく 与格
だいごかく 第五格	Apādāna	いどう さい こてい 移動の際, 固定であるもの	きてん 起点	だっかく 奪格
だいななかく 第七格	Adhikaraṇa	きばん きそう 基盤, 基層	ばしよ 場所	ばしよかく 場所格

ちなみに、第六格で表せる *Sambandha* (関係, 所有) と *Sambodhana* (呼びかけ) は動詞とその項の間の意味的關係 (意味役割) を表すものではないため格とは見なされない。近年の研究では、上記の古典的な意味役割の種類に「経験者 (experienter)」、「経路 (path)」などが新たに加えられているが、意味役割の数や種類については学者の間で意見が割れている。

- 「複合動詞レキシコン」 (<http://vlexicon.ninjal.ac.jp/db/>)

語彙的複合動詞 (V1 連用形 + V2, 例: 「食べ歩く」, 「駆け込む」など) は東アジアの言語にしか見られない現象のようで、特に日本語には数多くある。複合動詞は日本語学習者にとって習得しにくい項目でもある。「複合動詞レキシコン」データベースは現代日本語でよく使われる語彙的複合動詞 (2,700 語以上) を収録しており、

じょうき こくりつこくごけんきゅうじょ けんさく とも むりょう ていきょう けんさく
上記の国立国語研究所のサイトで検索ツールと共に無料で提供されている。この検索

りょう たと まぎ こ こ いてきふくごう
ツールを利用して、例えば「紛れ込む」のような、V2 が「～込む」である語彙的複合

どうし こ にゅうりょく しゅんじ み だ
動詞を「込む、こむ、komu」のいずれかの入力で瞬時に見つけ出すこともできる。

どう ふくごうどうし こうぞう れいぶん にほんご えいご かんこくご ちゅうごくご
同サイトではそれぞれの複合動詞の構造や例文を日本語、英語、韓国語、中国語で

ひょうじ ふくごうどうし がくしゅう やくだ
表示しており、複合動詞の学習に役立つものである。
